

市民と議会・行政をつなぐパイプ役として
地方議会に議員を送り出しています

編集・発行 世田谷・生活者ネットワーク 代表/佐藤里子

〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1-20-7-101

TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744

email: setagaya@seikatsusha.net

http://setagaya.seikatsusha.net

住民が意見・提案し、 参加する政治を目指して

議員は市民の代理人。市民参加条例の制定を！

平成28年 第1回定例区議会報告

開会期間 2月24日(水)～3月29日(火)



区議会議員

高岡じゅん子

本庁舎整備！ なによりも区民目線で議論を

区役所本庁舎は、まもなく築60年を迎えます。日本のモダンズムの騎手と言われた建築家・前川國男が、人の集える中庭や回廊形のエントランスなど、庁舎を使うのは区民が主役であるという理念を体現した作品ですが、老朽化で整備の必要に迫られています。

生活者ネットワークは、リノベーション(仕様を変更し性能を向上させる改築)を前提に、次のような主張をしてきました。①中心の大ケヤキなど木々をできるだけ残し、周囲の住宅街と調和させる②区民が集う中庭や回廊型配置を継承する

若年性認知症と家族支援

働き盛りの50代で発症する若年性認知症が増えています。社会的知名度が低いため、病院でもうつ病や更年期障害などと間違われ診断までに長い時間がかかります。職場の理解を得られず退職となり、家計の面でも家族が大変苦勞する現状もあります。当事者のやりがいを奪わないような居場所と活動支援、就労を継続できるよう職場への働きかけや医療との連携を求めました。

区の対応は、デイサービスのリハビリプログラムを開発する、企業の人に参加しやすい日時に普及啓発のための講演会を開催する等の新たな取り組みを行うことが示されました。



③区民目線で使いやすい低層とする④地球温暖化対策を重視し、自然エネルギーを活用できるものとする。

昨年秋に区長から、中庭を残し現庁舎を可能な限り保存活用する3つの試案が出されました。しかし区議会の半数以上を占める自民・公明・F行革が建て替える主張したため、現時点では「本庁舎等整備構想検討委員会」を設け、改めて区民や有識者の声を聞く方針が示されています。

この委員会が区民のオープンな議論の場として有効に機能し、環境や防災などにも十分配慮した構想が立てられること、設計段階より障がい者が参加し、ユニバーサルデザインを徹底させることを求め、確約を受けました。



下北沢の魅力を活かす街づくり

駅前広場と補助54号線の駅周辺部分の整備に区の力を集中させること。また街の将来像について、住民や事業者との協議を継続し、世界に認められている下北沢の魅力「住宅環境と多様な文化の混在」を大切にいくことを確認しました。

消費者トラブルへのより高度な対応を

4月から消費生活課が、生活文化部から産業政策部に移管されます。この組織改正は、消費生活センターの機能強化や、悪質商法の被害などを防ぐために区民参加による啓発活動を進めるためのものであることを確認しました。これからも安全・安心な暮らしができるよう生活の自治を推進し、区民生活に根差した区政の展開を求めていきます。

高齢化・晩婚化・ひとり親家庭など家族構造の変化にともない、介護と育児の両方を担う「ダブルケア」という家族介護者への過剰な負担が社会問題となっています。若年性認知症は発症する年代が若いことから、10～20代の「ヤングケアラー(若い介護者)」を生み出す可能性もあります。当事者にはケアプランを、家族にはライフプランを描けるよう支援を求めました。

区として来年度から新たに、その人の状況にあわせ、いつ・どこで・どのような医療や介護サービスを受けられるかを見える化する『認知症ケアパス』を作成することを確認しました。

誰もが安心して暮らし続けられる 住まいのサポート強化

高齢者・生活保護受給者・障がい者・ひとり親世帯の増加などで、安否確認など福祉的な視

点の住宅セーフティネットに対する要望が多様化しています。地域の実情を知る市民団体などと連携し、地域包括ケアと連動した見守り相談ネットワークを整備し、担い手の発掘や育成を制度化することを求めました。またボランティアや市民団体も、担い手の高齢化や人材不足など運営上の課題を抱えているため、相談できる窓口を早急に整備するよう求めました。

新年度より、小規模市民団体が自立・成長し区とのさらなる協働ができるよう、世田谷ボランティア協会に委託して、区内4ヶ所にNPO専用窓口を開設することになりました。



区議会議員

田中みち子

地図を見ながら街を歩き、地域の防災を考える集いを開催しました。羽根木町会、生活クラブ生協コミュニティ、区民消防団、区民防災士の方も参加し、総勢15名で散策しました。

ふだん気付かず通り過ぎている道端に防災グッズがあることを確認。実際に手にとってみると、いざという時すぐ使えそうな気がします。それぞれの自宅から一番近い消火栓の場所を確認したり、防災倉庫を開けて小型ポンプやスタンバイパイプを点検しました。

防火水槽をオープンで開けてみると、蓋が想像以上に重く力が必要でした。保存食の運び出しもあるのです。地域の防災の若い担い手を掘り起こしていきたい。また貯水槽の数も足りないのです。駐車場所有者に、地下水槽を設置してもらえようをお願いしたらどうかという話も出ました。

もし震災が起これば、地区の火災をできるだけ小さくうちに消し止め、延焼を少しでも減らすことが、避難路の確保につながります。自分たちの目で地域の様々な課題を確かめることで、具体的な改善目標を話し合うことができました。



消火栓を手に取る高岡区議

羽根木で「防災まち歩き」

オレンジリング

3月1日「認知症徘徊事故『監督は困難』家族に賠償責任なし」という最高裁の判決が出ました。社会全体で認知症患者を支える体制の整備が急務です。

どこでも希望者が5人以上集まれば無料で講師が派遣され、受講後は「何かお困りのことがありましたら、いつでもお声を掛けてください」という目印の「オレンジリング」がもらえます。あなたもサポーターになりませんか？

認知症サポーターは、何か特別なことをする人ではなく、誰もが自分の街で安心して住み続け老いていく「尊厳ある暮らし」を支え合っている人です。講座ではテキストやDVDを見ながら、「ゴミ出しをするとき」「買物をするとき」「道ですれちがうとき」などシーン別の具体的な対応例を学び、自分で行えることをはじめのきっかけになりました。

認知症サポーターは、何か特別なことをする人ではなく、誰もが自分の街で安心して住み続け老いていく「尊厳ある暮らし」を支え合っている人です。講座ではテキストやDVDを見ながら、「ゴミ出しをするとき」「買物をするとき」「道ですれちがうとき」などシーン別の具体的な対応例を学び、自分で行えることをはじめのきっかけになりました。

生活者ネットワーク福祉部会メンバーは、現在全国で展開されている「認知症サポーターキャラバン」の講座を、碓氷センターで受講しました。



高岡区議、田中区議、西崎都議といっしょに受講



寄せられたたくさんの意見を元に政策会議をしています。



神田香織さん 講演「チェルノブイリの祈り」 & 大河原まさこさんとの対談を開催しました。



あなたも会員になりませんか？

生活者ネットワークは、自分の住むまちを暮らしやすいまちにしたいと思う人々の集まりです。生活のなかで疑問に思うことを一緒に考えてみませんか？ 環境・福祉・子ども・食・女性・平和など各部会への参加の他に、都・区議会報告や機関誌などの情報が届きます。講演会や学習会などのイベントに優先参加できます。サポーター会員は年会費1000円から。電話またはメールにてお申し込み下さい。

カンパをお願いします。

生活者ネットワークは、市民のカンパとボランティアで政治活動を行っています。ご賛同くださる方は以下の口座にお振り込み下さい。活動費として大切にさせていただきます。

世田谷・生活者ネットワーク
郵便振替口座
00110-1-765709

*世田谷・生活者ネットワークからの通信を、郵送でなくメール添付にて配信希望の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください。setagaya@seikatsusha.net

区政へのご意見をお寄せ下さい。 世田谷・生活者ネットワーク

夏だ。選挙だ。

『ニッポンの政治』をおさらいしよう!

～初めて投票する君から、今さら聞けないあなたまで～

18歳選挙権で、参議院選に初めて投票する若者の参加歓迎!
親子でニッポンの政治情報をお勉強!
市民が政治の鍵を握る時代をつくろう。



中野晃一 × 大河原まさこ × 保坂展人

上智大学教授

前参議院議員

世田谷区長

日時 2016年5月14日(土) 13:30開場 14:00～16:00

場所 北沢タウンホール2F 第1・2集会室

主催 世田谷・生活者ネットワーク

資料代 500円

中野晃一
上智大学教授。立憲デモクラシーの会の中心メンバーであり、市民連合、SEALDsなど立憲主義回復の運動に関わってきた。

大河原まさこ
元東京・生活者ネットワーク代表委員、前参議院議員。今回、参議院全国比例区から立候補予定。長年、食の安全に関わり、いのちと平和を守る活動を行ってきた。